



### 本号の内容

- ・第3学期入学者入学式
- ・収穫祭
- ・TOMOニーズ・シーズ情報交換会開催
- ・文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室一行が油田副学長，磯田副学長を表敬
- ・CRICEDとCRMEがタイ国及びメコン川流域諸国の算数・数学教育で協力・連携
- ・日・チリ首脳会談でチリ国から要請を受けた算数・数学教育協力を本学が実施
- ・教育改善シンポジウム開催
- ・茨城大学・筑波大学・茨城高専・中小企業合同技術交流会開催
- ・いたばし産業見本市で健康福祉分野の研究成果紹介
- ・河本体育科学研究奨励賞授賞式
- ・向井千秋宇宙飛行士講演会
- ・リー・クローニン博士が附属高等学校で講演
- ・中国教職員招へいプログラムで招へいされた中国教職員が，附属高等学校，附属桐が丘養護学校及び附属久里浜養護学校を視察
- ・JICA障害者リーダーコース研修者が附属桐が丘養護学校を参観
- ・情報化研修を実施
- ・学生生活課からの報告
- ・交通事故等の防止
- ・共済積立貯金「払いもどし・解約請求書」等の提出期限
- ・授業の曜日振替
- ・ReaD対応サブシステム操作説明会開催
- ・学術情報メディアセンターからの各種お知らせ
- ・生涯生活設計セミナー参加者募集
- ・相撲観戦参加者募集
- ・シンポジウム「大学におけるキャリア教育・進路指導のあり方」開催
- ・自然学類化学セミナー開催
- ・CSC研究会開催
- ・リスク工学研究会開催
- ・つくばブレインサイエンス・セミナー開催
- ・各種表彰等

# 2004 22

2004年22号（通巻1091号）

発行：筑波大学

編集：総務・企画部

発行日：平成16年12月8日

## 第24回つくばマラソン

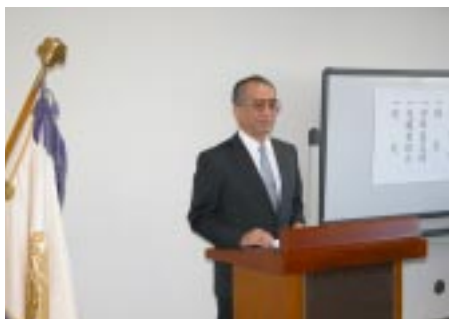
第24回つくばマラソン（本学，つくば市など主催）が，11月28日（日）に，本学の天久保池前をスタート。陸上競技場をゴールとする日本陸連公認コースで開催されました。当日は晴天に恵まれ，男女フルマラソンには7,000人余り，10キロコースには，男女2,000人余りが参加しました。

本学からは，共通科目「体育」の授業である「つくばマラソン」の受講生（現役学生）約100人と卒業生，職員が挑戦し健脚を披露しました。

また，磯田副学長がフルマラソンを完走する勇姿も見られました。



### 第3学期入学者入学式



中山医学専門学群長の式辞

平成16年度筑波大学「第3学期入学者」入学式が、12月1日（水）10:00から、医学専門学群棟4階4A411において行われました。

中山凱夫医学専門学群長の式辞の後、役職者の紹介が行われました。

入学者（学士編入）数は、医学専門学群医学類学生5名（男子4名、女子1名）でした。

### 農林技術センターで「収穫祭」が催される



岩崎洋一学長の餅つき  
合の手は油田信一副学長  
見守る工藤典雄副学長（学長の  
左後方）と林史典副学長（左端）

毎年恒例の収穫祭が、11月25日（木）に農林技術センターにおいて行われました。岩崎学長夫妻をはじめ、各副学長、生命環境科学研究科長及び学内要職者、センター教職員など関係者約70名が参加して、一年間の収穫に感謝し、懇談しました。

### 筑波大学産学連携会（TOMO）ニーズ・シーズ情報交換会が開催される

- 研究事業部産学連携課 -

筑波大学産学連携会（Tsukuba Office for Meeting Opportunities (TOMO)）は、本学が開学30周年を迎えたことを契機に、本学と企業の連携を一層深めると共に、本学の広汎な社会貢献の基盤を培うことを目的として、平成16年1月に設立された学外の任意の組織です。

この会は、本学におけるこれまでのリエゾン活動事業の実績を踏まえ、その充実を図り、大学の研究成果（シーズ）、特許情報の優先的提供、企業ニーズに基づく受託研究及び共同研究等のコーディネートなどのサービスを通じて、会員企業等と本学との太いパイプとなるものです。

今回の「筑波大学産学連携会ニーズ・シーズ情報交換会」は、産学リエゾン共同研究センターにおいて、11月19日（金）に開催され、産学連携会を代表して大竹美喜副会長（（財）国際科学振興財団会長）、本学を代表して岩崎洋一学長から挨拶がありました。このあと、会員ニーズ報告として、山中唯義氏（（株）ベンチャーラボ代表取締役）による「産官学 - 金融新連携への期待」、研究シーズ報告として、本学の宮崎修一教授（数理物質科学研究科）による「筑波大発・形状記憶合金について」、赤阪健教授（同）による「新規炭素系ナノ材料 - フラーレン・カーボンナノチューブ」について講演が行われました。

参加者は、本学から岩崎学長をはじめ、油田信一副学長、工藤典雄副学長、磯田文雄副学長、吉武博通学長特別補佐及び大学院博士課程研究科長など20名、企業側



大竹美喜産学連携会副会長（（財）国際科学振興財団会長）挨拶

は32社40名と、総勢60名にも上りました。学長との懇談会では、会員からの大学に対する期待・要望など、忌憚のない意見が出され、また、懇話会においても「産」と「学」の連携を促進するための活発な意見交換もなされるなど、盛況のうちに閉会となりました。

### 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室一行が油田副学長及び磯田副学長を表敬

教育開発国際協力研究センターの招へいにより、11月25日（木）、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室より柳孝室長他2名の担当官が油田信一副学長（研究担当）、磯田文雄副学長（財務担当）を表敬し、文部科学省の施策と本学の国際協力のあり方について懇談しました。一行は、その後、教育開発国際協力研究センター（中田英雄センター長）を訪問し、同センターが担う国際教育協力の中核センターとしての役割の重要性と発展への期待を述べました。さらに、4月に新設された北アフリカ研究センター（安部征雄センター長）を訪問し、北アフリカ・中東

地域における安定した社会実現へ向けての同センター創設の意義と役割の重要性、科学・技術・文化を基礎にした今後の発展への期待を述べました。全体会では、両センターが基礎教育から高等教育に及び学内外の研究戦略の要として機能することの重要性が述べられました。

右から文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室荒井寛企画調査係長（専門職）、金光謙一郎開発協力推進専門官、国際協力に係る文部科学省施策と本学への期待を述べる柳孝室長。それに応える油田副学長と磯田副学長



教育開発国際協力研究センター（CRICED）とタイ国数学教育研究センター（CRME）が、タイ国及びメコン川流域諸国の算数・数学教育で協力・連携

タイ王国は、タイ国内及びメコン川流域諸国における算数・数学教育の向上を目的とした数学教育研究センター（CRME）をコンケン大学に開所し（8月1日）、日本の算数・数学教育の調査のためにMaitree初代数学教育研究センター長ら関係者8名を、本学CRICED、附属駒場中・高等学校、附属小学校、附属中学校及び附属大塚養護学校へ派遣してきました。CRICED



ではこの訪問調査を受けて、11月14日（日）に「日タイ算数・数学教育共同研究企画会議」を開催し、中田英雄教育開発国際協力研究センター長及び清水静海助教授（人間総合科学研究科、教育）らCRICED関係者とCRME関係者が協議の結果、今後、タイ国及びメコン川流域の算数・数学教育において協力・連携することになりました。

右から討議するMaitree CRMEセンター長、Supochタイ大学数学教育学会長。磯田正美助教授(CRICED、左端)

小泉純一郎首相が日・チリ首脳会談でチリ国から要請を受けた算数・数学教育協力を、本学が実施

11月22日にチリ国で開催されたAPECにおいて、小泉首相がチリ国ラゴス大統領との会談の中で要請を受けた、チリ国の算数・数学教育協力について、本学が実施することになりました。中南米地域における算数・数学教育協力実績を持つ教育開発国際協力研究センター(CRICED)では、文部科学省の依頼により国際協力機構（JICA）筑波国際センターの支援の下に、チリ国の大学・教師教育関係者の国内研修・専門家派遣等による教育協力を附属小学校算数部と共同して実施することになりました。これに先立ち、チリ国政府より算数・数学教育の調査官2名が油田信一副学長を表敬し、本学への協力要請をしました。油田副学長は、JICAとともに学内関係組織が国際貢献する機会として歓迎するとともに、今後のチリ国からの留学生の受け入れへの期待などを述べました。



左から油田副学長、表敬するチリ国教育省 Cristian REYES氏、Malva ASENJO氏、中田英雄教育開発国際協力研究センター長

高校での学びの多様化と大学入試をテーマとした教育改善シンポジウムが開催される

- アドミッションセンター -

「高校での学びの多様化と大学入試」をテーマとする教育改善シンポジウムが、11月26日（金）、総合研究棟A公開講義室にて開催されました。

「水戸二高の入試対策と地学部における科学史の指導」岡村典夫教諭（水戸第二高等学校）と、「SSH等における学びの挑戦と社会を見据えた進学指導」山口和土教諭（高崎高等学校、進路指導部長）の2件の講演の後、鳴島甫教授（人文社会科学研究科）のコメントとディスカッションが行われました。両講師からは、

- 1 入試は大学から高校へのメッセージと捉えている。後期入試をやめるのはメッセージ送出のチャンスを減らすこと。



山口教諭（左）と岡村教諭

- 2 センター試験対策では本当の学力はつかない。入試でのセンター試験のウェイトを下げるべきである。
- 3 SSHや学術的課外活動の評価も望む。との提言がありました。

本学の学群長，学類長や近隣の高校からの出席もあり，活発な議論が展開されました。

「茨城大学・筑波大学・茨城高専・中小企業合同技術交流会」が水戸市で開催される  
- 産学リエゾン共同研究センター -

大学と企業との技術交流の促進等を目的とした「茨城大学・筑波大学・茨城高専・中小企業合同技術交流会」が，12月1日（水）13:30から，本学産学リエゾン共同研究センター，茨城大学，茨城工業高等専門学校，茨城県，（財）茨城県中小企業振興公社及び茨城産業会議の主催により，ホテルレイクビュー水戸（水戸市）において開催されました。

この合同交流会は，昨年から行われており，土浦市，日立市，下館市に次いで4回目の開催となった今回は，地元企業など約110名の参加者がありました。はじめに各大学等の産学連携への取り組みについての紹介があり，本学からは，谷田貝豊彦産学リエゾン共同研究センター長が本学の産学連携に関する活動紹介を行いました。引き続き，各大学等の研究者による技術シーズの発表が行われ，本学からは，石田政義助教授（システム情報工学研究科，構造エネルギー工学専攻）が「燃料電池および水素技術の適用による革新的エネルギーネットワークシステムの開発」について発表しました。



講演する石田助教授

また，同時平行的に企業に対する技術相談会が行われ，本学のシニアコーディネーター（本学の教員OB），技術移転マネージャーなどにより企業のニーズを踏まえた指導，助言が行われました。発表終了後に行われた大学等関係者と企業関係者との懇談会では活発に意見交換が行われ，盛況な交流会となりました。

いたばし産業見本市で健康福祉分野の研究成果を紹介  
- 東京リエゾンオフィス -

東京リエゾンオフィスは，産学リエゾン共同研究センターと協力し，11月18日（木）～20日（土）に板橋区立東板橋体育館（東京都板橋区）において開催された「第8回いたばし産業見本市」（主催：いたばし産業見本市実行委員会）に出展しました。板橋区から，産学連携で東京にも拠点を持つ本学に出展の依頼があったもので，今年の産業見本市のテーマは「健康福祉」。

- ・歩行などの動作支援機能を持つ「ロボットスーツHAL」  
山海嘉之教授（システム情報工学研究科）
- ・生体情報端末としてセンサ化・知能化した人工心臓（スマート化人工心臓）と遠隔から患者や人工心臓の状態を常に管理するシステム（ネットワーク医療）「次世代型人工心臓プロジェクト」  
山海嘉之教授
- ・寝たきり予防と医療費削減を可能とした地域の健康作りシステムの開発「筑波大学発ベンチャー・つくばウェルネスリサーチの紹介」  
久野譜也助教授（人間総合科学研究科）



展示風景

- ・高齢者を対象に運動による痴呆予防プロジェクト「脳フィットネスを高める運動，栄養の開発」  
征矢英昭助教授（同）
- ・地域における循環器疾患の実践的な予防活動「協和町脳卒中半減対策のあゆみ」  
磯博康教授（同）

・生活習慣病の予防と改善，“笑い”を取り入れた健康法「みんなで目指そう健康生活」



講演する林啓子助教授

林啓子助教授（同）の6研究成果が、実物の展示やDVDの映像を流しながら紹介されました。開催期間中の19日（金）には、林啓子助教授によるテーマ「みんなで目指そう健康生活」の講演会と、桐田慶技術移転マネージャーによる技術相談が行われました。

第18回筑波大学河本体育科学研究奨励賞授賞式が行われる

第18回筑波大学河本体育科学研究奨励賞授賞式が、11月22日（月）11:30から大学会館第4会議室で行われました。

この賞は、体育科学分野における若手研究者の研究を奨励するために設けられたもので、今回は、

- ・本間三和子助教授（人間総合科学研究科）の“Routine Analysis of Synchronised swimming at the 9th Fina World Championships 2001”
- ・木塚朝博講師（同）の「運動経験による伸張反射の調節能力の相違」
- ・木庭康樹準研究員（同）の「プラトン哲学におけるソーマの原理的特性」



前列左から、賞状を手にした本間助教授、河本社長、油田副学長及び受賞者の木庭準研究員

の研究業績に対し授与することになりました。

授賞式では、寄附者である河本武氏（（株）ユーハイム取締役社長）の臨席のもと、油田副学長（研究担当）から当日出席の2名に対し、賞状及び研究奨励費が授与されました。

向井千秋宇宙飛行士を招いての講評会が開催される

—芸術特別授業



講評会の様子。向井さんは中央

芸術・構成の2、3年を対象とした「無重量環境に於ける遊戯装置の考察」の授業は、重力から解放されて芸術やデザインを考える事で、改めて日常のライフスタイルを見直す事をテーマとしています。授業はJAXA（宇宙航空研究開発機構）、感性工学、体育施設プールなどの支援を得て、衣装、移動装置、食、遊具など20余りの多様なテーマが提案されました。

11月15日には、16:30から宇宙飛行士の向井千秋さんを招いて講評会（芸術専門学群B棟6B105）が開かれ、2時間を越える木目細かなアドバイスは学生達に大きな刺激となりました。宇宙と芸術と言う未来的なテーマは、本学ならではの総合的な授業として、更なる展開を目指します。



向井さん（中央）との記念撮影

リー・クローニン博士が附属高等学校で講演

11月17日、英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルのプログラムによる「高等学校生のための科学セミナー」が、附属高等学校で行われました。

講師は、グラスゴー大学教授のリー・クローニン博士。「分子構造から記憶装置と分子スイッチへ～分子コンピュータへの道」という演題で、約1時間の講演と約40分の質疑応答の時間を設けて頂くことが出来ました。博士は、将来を囑望される化学の研究者です。

講演は、スクリーン2枚とパワーポイントを使い、英語で行われましたが、生徒達は通訳の日本語をイヤホンで聞きました。30代前半の若い博士はカジュアルなスタイルで登場され、わかりやすい講演とユーモアたっぷりの語り口、生徒の質問に対しては、質問の意味を高く評価した上で、ジョークを交えての解説をされました。



講演会の様子

同校の英語圏からの帰国生・留学経験者等5~6人の生徒は、イヤホン無しで講演を聞き、質問も英語で行っていました。質疑は、講演内容のみならず、英国の大学のシステムやカリキュラムに関するものも飛び出しました。なお、会場となった化学講義室は超満員、臨時席も埋まって立ち見もでる大盛況となりました。

ユネスコ・アジア文化センターの「2004年中国教職員招へいプログラム」により招へいされた中国初等中等教職員が、附属高等学校、附属桐が丘養護学校及び附属久里浜養護学校を視察

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU:Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO）の「2004年中国教職員招へいプログラム」は、主にアジア太平洋地域の教職員及び教育等の分野の専門家の資質向上と相互理解の促進に資するため、国際連合大学が日本政府の拠出金をもとに開始した「日本国際教育交流プロジェクト」の一環である「ACCU国際教育交流事業」として実施されるものです。

11月22日（月）、このプログラムにより招へいされた中国政府教育部、中・高等学校教員合わせて100名が、都内近郊の学校を2グループに分かれ見学しました。その中で、1グループは附属高等学校及び附属桐が丘養護学校を、もう1グループは附属久里浜養護学校を訪れました。各校の様子は、次のとおり。

#### 附属高等学校

9時に、バス2台で来校した許明（Xu Ming）氏を団長とする一行50名を海保博之附属高等学校長が出迎え、体育館、グラウンド、武道館、プール等の施設を案内しました。武道館では、写真の嘉納治五郎について質問され、畳敷きには、座ったり横になったり、飛び跳ねてスプリングの具合を調べたりなど、熱心に見学しました。3限目は2グループに分かれての授業参観を行いました。日本の教科書に興味・関心を示され、数学、倫理、英語、日本史、現代文、漢文等の教科書を資料として持ち帰りました。4限目も2グループに分かれ、同校教員との交流会を行いました。



海保博之校長（左）と許明団長

授業のレベルや教育制度、教育行政から、やがては賃金の話にまで会話が広がり、対話の時間は十分とはいえませんが、スケジュールの都合で、交流会を盛会のうちに閉じることとなりました。交流会後、友好の絆に、プレゼント交換を行い、互いに有意義な時間を過ごしたのち、次ぎの視察校、附属桐が丘養護学校へ向かいました。

#### 附属桐が丘養護学校



視察団との記念撮影

附属高等学校の視察を終えた一行は、午後、附属桐が丘養護学校を視察しました。中学部及び高等部の国語、英語、化学、数学などの授業を熱心に見学し、質疑応答の時間には教育課程や学習グループ、教員の労働量や給料などについての質問がなされ、活発な意見交換をみました。

#### 附属久里浜養護学校

午後に来訪した一行は、校内視察後、VTRで幼児・児童の教育活動の様子や近隣小学校との交流学習、幼稚部が保護者・幼児を対象として行っている親子教室の様子を視聴しました。その後、西川校長の学校概要説明を受け、同校との意見交換会を持ちました。



意見交換会の様子

視察者からは、熱心に障害児の教育に当たる教員の資格についての質問や、養護学校で教育を受けた児童の卒後の状況等についての質問が数多く出され、できるだけ多くの情報を収集しようとする熱意が感じられる、有意義な意見交換会となりました。

#### JICA障害者リーダーコース研修者が附属桐が丘養護学校を参観

10月19日(火)、日本リハビリテーション協会がJICAの協力で主催している「障害者リーダーコース研修」の参加者19名(通訳2名、介助ボランティア等5名を含む。)が、附属桐が丘養護学校を参観しました。

アフリカ、中南米、東南アジアの国々から来られた方々で、それぞれ何らかの障害を持っていますが、これからの障害児教育や、社会福祉関係の制度・施設の整備に関して、それぞれの国でリーダー的役割を果たす方々です。

当日は中学部各学年の「総合的な学習の時間～自分について考えて見よう～」(5、



生徒等との記念撮影

6校時)を見学しました。どの方も、生徒の発表や話し合いの様子に、生徒が非常に親しみやすく、活発だという印象を持ったそうです。(制度的に)こういう学校があつてうらやましいという感想も聞かれました。また、昼食として、同校の給食を生徒達と一緒に味わいました。非常においしいと好評でした。

#### 平成16年度第 期情報化研修を実施

- 総務・企画部情報化推進室 -



Excel中級コースの研修風景

平成16年度第 期情報化研修として、Excel中級コース及びWord中級コースを実施しました。このコースは、パソコン入門・初級コースの発展コースとして開設され、情報化推進のため、より高度な機能を習得することによりパソコンを積極的に活用できる能力を育成するためのコースです。

学術情報メディアセンター実習室を会場に開催され、Excel中級コースが11月16日、17日に、Word中級コースが18日、19日に行われ、それぞれ25名、24名が受講しました。

表計算ソフトのExcelではピボットテーブルや高度な関数など、ワープロソフトのWordでは差込印刷やフォーム、高度な編集技法などの講義や操作演習を行いました。



Word 中級コースの研修

#### 学生生活課からの報告

現在、学群・学生部学生生活課では、国立大学法人筑波大学の中期目標等の「安全管理に関する目標」の「年度計画」に掲げている学生の安全確保等に関する具体的な方策について、関係組織等と検討した結果、緊急性と有効性を勘案して、段階的に次のような学生生活環境の整備を図るべく、平成16年度補正予算の要求をしています。

○緊急度の高い安全確保に関する環境の整備として

- 1 学生宿舎(女子棟)玄関ドアのオートロックの導入
- 2 学内ループ道路、ペディストリアン等の外灯整備
- 3 学生宿舎地区の樹木剪定

○快適な学生生活環境の整備として

- 1 一の矢学生宿舎の屋上防水工事
- 2 保健管理センターの屋上防水工事及び壁面改修整備
- 3 体育・芸術専門学群食堂の床面改修整備

さらに、学生生活課では、学生が快適で安全な学生生活が送れるような具体的方策を検討するとともに、学生のニーズと周辺環境の変化に応じた環境整備を検討していくこととしています。

交通事故等の防止について

- 組織・人事部人事課 -

交通事故及び交通法規違反の処分は、道路交通法等の改正に伴い、従来より一層厳しくなっています。運転中の携帯電話通話への罰則が設けられたことは、記憶に新しいところです。

年末年始の時期を迎え、飲酒の機会が増えると思われませんが、「飲んだら乗らない！乗るなら飲まない！」ことを徹底し、交通事故や交通法規違反等の未然防止に努めて下さい。

万が一事故等を起こし、道路交通法違反による行政処分及び刑事処分を受けるような場合は、所属の長あて遅滞なく報告願います。

なお、飲酒又は酒気帯び運転及びこれに伴う交通事故等の場合には、特に厳正な懲戒処分等の対処が求められています。

共済積立貯金「払いもどし・解約請求書」等の提出期限について

共済積立貯金「払いもどし・解約請求書」等の共済組合係への提出期限は毎月末日までとなっておりますが、平成17年1月に入金を希望される方は、年末年始の祝休日の日程上、12月20日(月)までに、必要書類を組織・人事部人事課福利厚生室共済組合係(TEL2152)に提出して下さい。

授業の曜日振替について

- 学群・学生部 -  
- 大学院部 -

授業日数確保のため、次のとおり振替になっておりますので、ご注意願います。

(振替曜日)

(第3学期) 平成16年12月22日(水)は、木曜日の授業を実施

平成17年 2月 9日(水)は、金曜日の授業を実施

平成17年 2月22日(火)は、金曜日の授業を実施

ReaD対応サブシステム操作説明会の開催について

- 研究事業部研究事業課 -

本学研究者情報システムのサブシステムであるReaD対応サブシステムについて、次の日程で操作説明会を開催いたします。

各回とも同じ内容ですので、都合のよい回にご参加ください。

第1回 12月10日(金) 15:15~16:30 第3学群A棟3A204教室

第2回 12月14日(火) 同 体芸中央棟52B11教室

第3回 12月16日(木) 同 第1学群H棟1H201教室

対 象：ReaD対応サブシステム利用者

問合せ先：研究事業部研究事業課研究情報(TEL2934)

学術情報メディアセンターから、  
計算機システム運用休止、メディア関係機器の利用休止、高性能クラスタ計算機の試用サービス等についてのお知らせ

年末年始の計算機システム運用休止について

次のとおり計算機システムの運用を休止しますので、お知らせします。

計算サーバーシステム(sakura)

通常どおり運用します。

スーパーコンピュータシステム(mimosa)

運用休止期間：12月27日(月)13:00~1月4日(火)13:00

注意：運用休止となる時点で実行を終了しないジョブは、キャンセルします。

ジョブフリーズは実施しません。

教育用計算機(icho)

通常どおり運用します。

但し、実習室については、次のとおり閉室しますのでご注意ください。

・学術情報メディアセンター内実習室：12月28日(火) 8:40~1月5日(水) 8:40

・1C206, 2D303/304, 54C01：12月27日(月) 13:00~1月5日(水) 8:30



- ・マルチメディア室（CA棟102）：12月27日（月）13:00～1月5日（水）8:30
- ・附属図書館に設置されている端末：開館時間内は利用できます。

ネットワークシステム

通常どおり運用します。

春日ランチ

メインコンピュータシステムは、通常どおり運用します。

マルチメディアネットワークシステムについては、12月中は通常どおり運用しますが、システム更新作業のため、1月中に運用を停止する予定です。具体的日時については、決定次第、春日ランチニュースに掲載しますので、そちらをご覧ください。

URL：[http://www.slis.tsukuba.ac.jp/ipc/ipnews/ipcnews\\_new.html](http://www.slis.tsukuba.ac.jp/ipc/ipnews/ipcnews_new.html)

但し、実習室、及び情報処理実験・演習室は、12月29日（水）～1月3日（月）の期間、「終日閉室」にします。

メディア関係機器の利用休止について

メディア関係（旧教育機器センター）機器総点検の為、メディア関係機器を設備する施設の利用を次の期間休止します。なお、機器貸出業務は当面停止します。

休止期間：12月24日（金）～1月6日（木）

高性能クラスタ計算機の試用サービス及びWebCTの試用サービスについて

このたび新たに導入した高性能クラスタ計算機及びe-LearningシステムWebCTに関して、試用サービスを行ないます。

WebCTはWebブラウザから利用可能な学習管理システム(LMS: Learning Management System)で、次に掲げるものを含む様々な機能を有しています。

- ・教材の配付
- ・テスト、レポートなどによる成績の評価と管理
- ・自己診断テストを用いての学生自信による理解度把握
- ・シラバス作成
- ・索引、用語集、画像データベースなどによる学習補助
- ・掲示板、電子メール、チャット、ホワイトボードなどのコミュニケーション補助機能
- ・グループ学習機能
- ・個々の学生の進行状況の把握

この試用サービスは、本学の教職員の方ならどなたでも利用いただけます。

高性能クラスタ計算機を利用いただくためには、計算サーバ(sakura)の利用者登録が必要となります。sakuraの利用者登録手続きは、次のホームページをご覧ください。

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/sakura-system.html>

また、WebCTの試用の詳細及び高性能クラスタ計算機の概要、基本的な使用方法については、次の学術情報メディアセンターホームページ

<http://www.cc.tsukuba.ac.jp/index-j.html>

にてお知らせします。

#### 生涯生活設計セミナー参加者募集

教職員のための平成16年度生涯生活設計セミナーを次のとおり実施しますので、ご参加ください。

目的：人生80年時代を迎えた今日、退職後の人生を内容豊かで有意義なものにするためには、在職中から退職後の将来までを見通した生活全般にわたる生活設計を行い、長期的・計画的な準備をしていくことが重要です。このため、職員に生涯生活設計を作成するために必要な知識や情報を提供し、在職中から自らの生涯生活設計を立案することにより、退職後の生活を豊かで充実したものにすることを目的とします。

日時：平成17年1月27日（木）9:30～17:00

場所：大学会館3階特別会議室

内容：・講話「第二の人生について」  
・共済年金制度について



久保田慶一教授（東京学芸大学教育学部）  
 船津静代助手（名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター  
 学生相談総合センター就職相談員）  
 渡辺三枝子教授（人間総合科学研究科）

## セッション3

講演：大学におけるキャリア教育のあるべき姿  
 渡辺三枝子教授

参加対象者：教職員

問合せ先：学群・学生部就職課就職係（TEL2254）

## 第5回及び第6回自然学類化学セミナーの開催について

自然学類では、平成16年度第5回及び第6回自然学類化学セミナーを次により開催します。最先端の化学について分かり易しく解説されますので、一般の方々のご来聴を歓迎します。

## 第5回自然学類化学セミナー

日時：12月20日（月）6時限（16:45～18:00）

場所：第一学群H棟1H101

演題：地球を救う化学

福住俊一教授（大阪大学大学院工学研究科）

担当：世話人 数理物質科学研究科化学専攻 赤阪健（TEL6409）

## 第6回自然学類化学セミナー

日時：12月21日（火）6時限（16:45～18:00）

場所：第一学群H棟1H101

演題：分子機械としての生物と分子素子の将来像

山崎巖教授（北海道大学大学院工学研究科）

担当：世話人 数理物質科学研究科化学専攻 新井達郎（TEL4315）

連絡先：化学専攻 西尾建彦（TEL6921）、守橋健二（TEL4223）

## 第8回及び第5回CSC研究会の開催について



比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは次により第8回「住民自治組織と統治構造の比較研究」研究会及び第5回CSCヨーロッパ研究会を開催します。皆様の参加をお待ちしております。

## 第8回CSC「住民自治組織と統治構造の比較研究」研究会

日時：12月11日（土）14:00～18:00

場所：第三学群K棟3K219

・第一部（14:20～15:25）

演題：住民自治組織と統治構造 - ラテン・アメリカのケースから -

遅野井茂雄教授（人文社会科学研究科）

・第二部（15:40～18:00）

安岡正晴（神戸大学）「アメリカの住民自治組織と統治構造」

久邇良子（東京学芸大学）「フランスの住民自治組織と統治構造」

井上恭子（大東文化大学）「インドの住民自治組織と統治構造」

中村逸郎助教授（人文社会科学研究科）「ロシアの住民自治組織と統治構造」

小嶋華津子講師（同）「中国の住民自治組織と統治構造」

比較にあたっての分析枠組み等に関する議論

## 第5回CSCヨーロッパ研究会

日時：12月15日（水）17:00～18:30

場所：人文社会学系棟B419

演題：「第3の道」以後のヨーロッパ社会民主主義政権

- 英独の福祉国家改革の比較から -

近藤康史講師（人文社会科学研究科）

共催：独立行政法人 日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」（多元的共生社会に向けた知の再編）「多元的共生に関する国際比較」

連絡先：岩田拓夫（iwata@social.tsukuba.ac.jp）

第22回リスク工学研究会  
(RERM)の開催について

システム情報工学研究科リスク工学専攻では、定期的にリスク工学研究会を開催しています。次回の開催予定は次のとおりです。参加は自由ですので、研究科の教職員・学生だけでなく、興味のある多数の方々への参加をお待ちしています。

日 時：1月11日(火) 18:00~20:00

場 所：総合研究棟B 1F公開講義室

講 演 1：安全・安心を実現する専門家・組織・社会のあり方  
氏田博士(財団法人エネルギー総合工学研究所)

講 演 2：株式ティックデータを使用した市場インパクト関数の推定と取引執行リスクの管理

竹原均 助教授(システム情報工学研究科,  
計量ファイナンス・マネジメント専攻)

担 当：システム情報工学研究科リスク工学専攻 古川宏, 佐藤美佳

問合せ先：村尾修(TEL, FAX5370: <http://www.murao.net>)

RERMの趣旨等については、次をご覧ください。

<http://www.risk.tsukuba.ac.jp/meeting/rerm/index.html>

第114回つくばブレインサイエ  
ンス・セミナー(12月定例会)  
の開催について

日 時：12月14日(火) 18:00~

場 所：医学専門学群棟臨床講義室(A)

演 題：Brain PET技術の中核疾患治療薬創薬への応用

高松宏幸(藤沢薬品工業株式会社創薬推進研究所)

問合せ先：基礎医学系TBSA事務局 大野忠雄(代表)(TEL3098, FAX3495)

E-mail: [tbsa@md.tsukuba.ac.jp](mailto:tbsa@md.tsukuba.ac.jp) (Tsukuba Brain Sci. Assoc.)

U R L : <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tbsa/>

このセミナーは、医科学研究科(修士課程)及び人間総合科学研究科(博士課程)との共催セミナーで、参加は自由です。

寺西利治教授が独立行政法人新  
エネルギー・産業技術総合開発  
機構の産業技術研究助成事業に  
採択される

寺西利治教授(数理解析学系研究科, 化学専攻)は、研究課題「溶媒フリー合成法によるナノデバイス用無機ナノ粒子の構造制御と大量合成」で、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の平成16年度第2回「産業技術研究助成事業」に

採択されました。この助成事業は、明日の産業技術を担う技術シーズの発掘と技術人材の育成を目的として、国内の大学・研究機関等の若手研究者や若手研究チームが取り組む、優れた研究開発テーマに対し助成する事業で、680件の応募から50件(ナノテクノロジー・材料分野では137件中8件)が採択されたものです。研究期間は3年間で、ナノ電子・光・磁気デバイス用無機ナノ粒子の構造制御と大量合成を行います。



坂本和一助教授が国際会議  
ICOS2004最優秀論文発表賞を受  
賞

坂本和一助教授(生命環境科学研究科, 情報生物科学専攻)が第2回国際O-CHA学術会議(ICOS2004, International Conference on O-CHA(tea) Culture and Science)において、「カテキンによる正常な骨代謝の維持機構 “Tea Catechin Control the Normal Bone Metabolism”」と題した論文により、最優秀論文発表賞を受賞しました。この賞は、同国際会議(ICOS2004)において、期間中に発表が行われた全ての論文の中から最も優秀な研究発表に対して授与されるものです。



繁森英幸助教授が内藤記念科学  
奨励金(研究助成)に採択され  
る

繁森英幸助教授(生命環境科学研究科, 生物機能科学専攻)は、研究課題「花成ホルモンflorigenの解明と新規農薬の開発研究」により、2004年度内藤記念科学奨励金(研究助成)に採択されました。(贈呈式2005年3月, 東京)この賞は、エーザイ株式会社が創業25周年を記念して財団法人内藤記念科学振興財団を設立し、「人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究に独創的・意欲的に取り組んでいる優秀な若手研究者」を対象に授与されたものです。



山本泰彦教授指導下の数理物質科学研究科4年大山貴子氏が京極記念基金を受領

山本泰彦教授（数理物質科学研究科，化学専攻）指導下の数理物質科学研究科4年大山貴子氏（化学専攻）が，核磁気共鳴（NMR）国際会議における発表者としてふさわしい若手研究者として認められ，京極記念基金を受領しました。

この基金は，日本核磁気共鳴学会 (<http://www.soc.nii.ac.jp/nmr/>) が故京極好正大阪大学名誉教授のご遺族からの申し入れを受けて設立し，若手研究者の海外渡航費用



左から甲斐荘正恒日本核磁気共鳴学会会長，大山氏及び山本教授

の助成を目的としています。第1回目の今年度は4名が選出されました。大山氏の受領金は2005年1月インド共和国で開催される第21回生体系磁気共鳴国際会議 (<http://www.tifr.res.in/~icmrbs/>) への渡航費用として使われます。

征矢英昭助教授指導下の人間総合科学研究科4年西島壮氏が日本体力医学会大会若手奨励賞を受賞

征矢英昭助教授（人間総合科学研究科，体育科学専攻）指導下の人間総合科学研究科4年西島壮氏（体育科学専攻）が，日本体力医学会大会第59回大会において，「低強度トレッドミル走運動による海馬神経活動の活性化：海馬局所血流量モニタリングによる研究」と題した発表により，若手奨励賞を受賞しました。



本研究は，COE関連のプロジェクトの一部を担うもので，運動中の海馬の活性化を調べるために新たに開発した活動時の海馬血流モニター法が評価されたものです。

末益崇助教授指導下の数理物質科学研究科2年猪俣裕哉氏が応用物理学学会学術講演会で講演奨励賞を受賞

末益崇助教授（数理物質科学研究科，電子・物理工学専攻）指導下の数理物質科学研究科2年猪俣裕哉氏（電子・物理工学専攻）が第65回応用物理学学会学術講演会

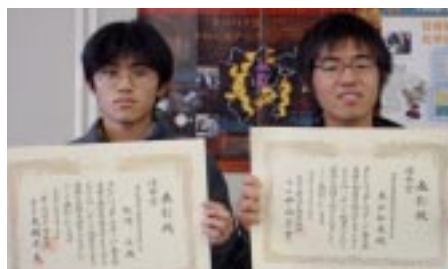


で講演奨励賞を受賞しました。この賞は，応用物理学の発展に貢献しうる優秀な一般講演論文を発表した満33歳以下の筆頭著者に与えられるもので，受賞者数は一般講演件数の1%以内と定められています。受賞対象となった論文は，アルカリ土類金属からなる半導体BaSi<sub>2</sub>にSrを添加することで，禁制帯幅が制御可能な新しいSiベースの半導体を作製したというものです。今後，安くて高効率な太陽電池材料として，その実力が試されます。

附属駒場高等学校3年の末弘祐基君と松岡広君が全国高校化学グランプリ2004で優秀賞を，坪井達久君と村島大我君も銀賞を受賞 - 附属駒場高等学校 -

国際化学オリンピック（IChO）の国内予選を兼ねた，全国高校化学グランプリ2004（日本化学会化学教育協議会，「夢・化学-21」委員会主催）で，附属駒場高等学校3年の末弘祐基君と松岡広君がそれぞれ優秀賞を，坪井達久君と村島大我君もそれぞれ銀賞を受賞しました。

6回目の開催となるこのグランプリには，全国から過去最高の1,201名の高校生が参加し，夏休みに行われた一次選考の筆記試験，二次選考の実技試験（実験）を経て，優秀賞6名，金賞14名，銀賞21名ほかの入賞者が選考されました。今回受賞した4



優秀賞の賞状を持つ松岡君（左）と末弘君

名は，同校が取り組むスーパーサイエンスハイスクールでの講演や実験に積極的に参加してきた生徒です。上位入賞者は，次年度のIChO日本代表となりますが，同校の受賞者達は3年生のため代表となることは叶いませんでした。しかし，この受賞者達の今後の活躍は，大いに期待されます。

筑波大学剣友会が関東地区文部科学省関係機関等職員剣道大会で優勝！

11月13日（土）文部科学省本省第二レクリエーション室において，「第4回関東地区文部科学省関係機関等職員剣道大会」が行われ，団体戦において筑波大学剣友会が見事に優勝を飾りました。これで，昭和62年5月「第1回在京国公立大学等職員剣

道大会」として始められたこの大会での優勝も、通算で5度目を数えました。

団体戦は、本学、東京大学、文部科学省A、文部科学省B、連合チームの5チームが総当たりとなる三将のリーグ戦として争われました。本学からは、武井一浩（三段、財務部資金管理課）、鈴木孝幸（六段、施設部施設企画課）、中谷陽二（錬士六段、人間総合科学研究科教授）及び小山田健児（三段、学群・学生部長）の4名で出場しました。戦績は、連合チームに1 - 2と惜敗したものの、残り3試合を勝利。最終的に文部科学省Bと勝敗数を同じにするが、勝者数、取得本数ともに本学が上回り優勝しました。これに続いて行われた個人戦は、トーナメント戦で行われました。鈴木孝幸選手は準決勝まで駒を進め、個人戦優勝者となった商船大学井口選手に善戦しました。

試合後は、親睦を深めるための交流稽古会が一般の愛好家も交え約1時間弱ほどの間行われ、参加者それぞれが心地よい汗をかくと共に、互いの交流を深めました。

剣友会では、毎週月・水・金の18:00～19:30武道館1Fの古武道場で稽古を続けてお



優勝した剣友会チーム

左から鈴木、中谷、武井、小山田の各選手

ります。参加者は、学内教職員はもとより近隣の剣道愛好者で、男・女レベルの別なく一緒に汗を流しております。現在では、七段・六段といった高段者も増えており、各自が自分の目標を持って楽しく練習しております。剣道に興味のある方は、是非お問い合わせください。

世話人：システム情報工学技術支援室

和田勉(TEL5568)

E-mail：wada@sk.tsukuba.ac.jp

#### 「速報つくば」からのお知らせ

「速報つくば」の次回（通巻1092号）の発行は12月22日（水）、原稿締切りは12月16日（木）となります。

学内行事、イベント情報及び教職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお、「速報つくば」への寄稿に際しては、次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については、受賞者氏名、所属、受賞名、簡単な賞の説明、受賞対象論文名等（掲載誌のページ等は省略願います。）とし、授賞式の日時、場所等については、必要がある場合等を除き、省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は、なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用させて頂いた原稿は、Web上に掲載しますので、ご了承願います。また、文教速報（官庁通信社発行）、文教ニュース（文教ニュース社発行）及びSTUDENTS（学群・学生部発行）等からの情報提供依頼があった場合は、掲載情報（写真等を含む。）を提供しますのでご承知おきください。

「速報つくば」のhtml版及びPDF版は、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース、写真の提供及び掲載内容へのご意見は広報課（TEL2065，FAX2014）へお願いします。

E-mail：sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿された方には、「速報つくば」より原稿受付等の返信メールをお送りしますので、ご確認ください。なお、返信メールが届かない場合は、お手数でも広報課までご連絡いただきますようお願いいたします。